



**GIRLS
GET EQUAL**

**ACCELERATING EFFORTS TO
ELIMINATE CHILD, EARLY AND
FORCED MARRIAGE IN ASIA**

アジアにおける

**強制的な早すぎる結婚の撤廃に向けた
取り組みを加速化させるために**

TIME TO

ACT!

**EMERGING EFFECTIVE
INTERVENTIONS
AND STRATEGIES**

効果的な支援と戦略

要旨

アジアの女の子たちにとっての、強制的な早すぎる結婚

南アジアと東南アジアでは、強制的な早すぎる結婚（CEFM）が非常に高い頻度で発生している¹。南アジア地域はCEFMの割合が最も高い。バングラデシュとネパールは世界の上位20国以内に入り、インドはその次に続く国で発生する件数の数倍になることもある²。見合い結婚は依然として一般的であるが³、意図しない妊娠（同意の上での性交渉の結果か、強制された性行為や性暴力によるものかを問わず）に呼応して、「余儀なき結婚」が行われることが多くなっている⁴。アジア地域では、思春期の妊娠の43%が意図しない妊娠であり（一部は婚姻中に発生）⁵、アジア太平洋全域では、15～19歳の思春期の女の子と女性による妊娠の63%が意図しない妊娠である⁶。

プラン・インターナショナル アジア地域事務所による CEFMに関する調査

CEFM防止の活動は、ジェンダー平等を推進するプランの活動の重要な側面である。プランの地域事務局は、3段階の調査を実施した。一連の調査の第I期では、地域における早すぎる結婚の実態、根本原因、影響、早すぎる結婚の防止・軽減を目的とした取り組みについて取り上げる⁷。この報告書は、プラン・インターナショナルのアジア地域事務所が活動している14カ国（バングラデシュ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、ラオス、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナム）のデータを利用した。UNFPA EAPROの助力により作成された第II期（本報告書）では、これらプランの取り組みがCEFMの予防、削減、そして根絶に奏功し、効果を発揮したかどうかを掘り下げ、成功につながりうる要因を明らかにしている。また、第II期は、アジア各国政府やステークホルダーが大規模に展開した場合、CEFMの撤廃につながる可能性が最も高いと思われる施策や革新的なアプローチを特定する。この研究における第III期は、費用の分析に焦点を当て、第II期で特定された施策を政府が実施するためにかかる費用とモデルを求め、特定の状況下においてどのモデルが最も有効的であるかを特定する。

第II期の本報告書では、広範な調査、地域の専門家へのインタビュー、および5つの重点国（**バングラデシュ、カンボジア、インド、インドネシア、ベトナム**）のコンサルタントからの協力により、施策、主要な成功要因、課題と可能性、そしてテーマが特定された。**インド、バングラデシュ、インドネシア**は、18歳未満で結婚する女の子が最も多い上位10カ国に含まれている。CEFMが人々の日常に浸透している傾向がある南アジアでは、**インドとバングラデシュ**が、CEFMに取り組むプログラムの数が調査対象国の中で最も多くなっている。政府や市民社会はCEFMを終わらせるための活動をしているが、**カンボジアとインドネシア**では、進行中のプログラムは比較的少ない。**バングラデシュとインドネシア**は、イスラム教徒の多い国でありながら、CEFMにそれぞれ異なった形で対応している点で、興味深い対極をなしている。**ベトナム**では、少数民族のCEFM対策に取り組み始めており、国民全体の早すぎる結婚について考え始めているようだ。

提言

この調査から、評価文献に記載されているものに加え、さまざまな**革新的で有望な実践例**が見えてきた。以下の提言は、CEFM削減以外の成果についても評価されたプログラム、小規模に実施されたプログラム、あるいは時間不足のため確たる成果をは得られずとも、次の段階での検討に値するプログラムも含まれる。（最初の5つの提言は、CEFMを終わらせるためにアジア地域と世界で**何が有効であったか**という証拠を反映している）

1. プログラム戦略や活動内容を各地域の文脈に則して形成する
2. CEFMを政府および開発の枠組みに統合させる
3. プログラム戦略や活動内容に、ジェンダー・トランスフォーマティブな視点を適用する
4. 組織としての女の子たちのエンパワーメントを促す
5. 政府の能力とオーナーシップの構築を通じて、政府による支援を確保する
6. 思春期のセクシュアリティと意図しない妊娠の課題に取り組む
7. 伝統的指導者と宗教指導者の参画を促す
8. 思春期の子どもとユースの有意義な参画を保障する
9. 長期的なプログラム、評価、更なるエビデンスを生み出す調査へ投資する

分析結果

分析結果は、文献、地域インタビュー、国別調査によって示されたアプローチや戦略を特定した。

横断的なテーマ

CEFMの撤廃に向けた最も効果的な取り組みを特徴づける横断的なテーマとして、以下が挙げられる。

- **ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチ**は、女の子や女性の可能性を制限し、男の子や男性を束縛する根本的な規範や価値観を変えるよう働きかけ、そうした規範や価値観によって女性にも男性にも同様に適切と考えられている境界を広げる。
- プログラムの計画、実施、評価、組織のリーダーシップ、その他あらゆる形態のパートナーシップへの**ユースの参加**は、プログラムの結果と持続可能性を全体的に向上させる⁸。インドネシアでは、複数のユース主導の組織が、地方自治体や他のパートナーと協力し、CEFMを防ぐための独自の解決策を生み出している⁹。プラン、Rutgers WPF、Aliansi Remaja Independenは、ロンボク島の地元の住民組織(CBOs)と連携して、女の子たちによる政策提言活動を「Yes I Do」キャンペーンを通じて支援している
- **女の子たちの組織化** - 女の子やユース女性のグループによる、対話と情報共有のための安全な空間を作るプログラムは、女の子たちをエンパワーし情報を提供することや、女の子たちの社会的ネットワークと自信を築くこと、女の子たちがコミュニティで自分たちのために政策提言活動をする組織をつくる基盤を提供することなどを達成するための、革新的な戦略である。
- **統合的プログラム**は、早すぎる結婚による脆弱性を軽減する社会的・経済的資源の両方によって、女の子へ保護的な資産を提供する。また、このプログラムは側面的な政策やサービス環境の構築に貢献し、女の子に対して新しく、かつより良いまなざしや扱いがなされるように家族やコミュニティを参画させることができる。バングラデシュにおける人口評議会のBALIKAプロジェクトは、教育、ジェンダー啓発トレーニング、生計向上トレーニングという3種類の支援戦略を採用し、どの活動が結婚を遅らせるのに最も効果的かを評価した¹⁰。
- **世代を超えた対話**は、子どもと親の間で、重要でありながら困難な話題に関して、よりよい共有と連帯促すために、世界中のプログラムで採用されている重要な戦略である。インドの公衆衛生管理研究所は、女の子クラブの準実験的評価、男の子との連携、親へのカウンセリングを実施している¹¹。
- **男の子や男性のエンゲージメント** - 男の子や男性が自分自身の男性性、人間関係、父性について理解するために議論し、対話することにエンゲージすることは、ユース男性がジェンダー規範を変革することに価値があることを示すとともに、結婚を遅らせることに貢献できる。World VisionとPromundoは、インドで早すぎる結婚をなくすために父親のエンゲージを促すカリキュラム「An Equal Future (平等な未来)」を開発した¹²。
- **宗教指導者との連携**も重要な戦略であることが証明されている。また、インドネシアでは、イスラム教の女性宗教指導者による会議が開かれ、CEFMに反対するファトワ(注：イスラムの権威者が公式に出す宣言のこと)を発表した¹³。
- **女の子を支援するために文化的・社会的規範を変えること**は、近年、多くのプログラムの焦点となっている。近年ではネパールとバングラデシュにおけるCAREのティッピング・ポイント(注：臨界点、閾値)・プログラムは、特定の社会規範に関連付けた計画立案方法が採用されており、その活動は、CEFMに代わるポジティブな選択肢を促進することにつながっている。これらのプログラムが目指すものは、妻や母親といった伝統的な女性の役割を超えて、女の子が道を切り開くこと、そして、女の子が、早すぎる結婚を介してただ大人女性に成長するのではなく、思春期の女の子が自身の将来を見出すための時間を確保することを手助けすることである。

- また、**スポーツやアート、エンターテインメント**を活用することも重要な戦略となっている。例えば、Skatistanは、**カンボジアとアフガニスタン**のユースを教育やリーダーシップ開発プログラムに参加させるためにスケートボードを使用しており、教室での授業1時間につき1時間のスケートボードの時間を設けている¹⁴。**バングラデシュ**では、Lensationalが、ダッカの2つの工場の女性縫製労働者と観光地のコックスバザールの10代のサーファーガールを対象に、参加型写真プロジェクトを実施した。ロングランとなった**娯楽・教育番組**をいくつも制作してきた、Population Media Centerは、テレビやラジオで早すぎる結婚も取り上げてきた。**ネパール**では、Population Media Centerが2016年4月に2つのラジオ連続ドラマを開始し、ラジェツ・ハマルや、自身が14歳の時に12歳の妻と結婚したネパール前大統領のラム・バラ・ヤダヴといった有名人たちからの高い賛同を集めている。
- **バングラデシュ**では、有害な男性性に取り組むために家庭内暴力に関するイラスト入りの**広告キャンペーンが実施**された¹⁵。
- **アフガニスタン、バングラデシュ、インド、ネパール、パキスタン、スリランカ**における**法的・政策的枠組みの構築と実施**は、Center for Reproductive Rightsによる分析によって支持されている。これらの分析は、既存の法律や政策を施行し、必要な法改正を行い、人権擁護のための提言活動および訴訟を支援する政府担当者の職責を強化するための資源となった¹⁶。
- ユニセフとUNFPAの「早すぎる結婚撲滅のための行動加速化グローバルプログラム（2015～2018）」をはじめとする**グローバル・パートナーシップ**は、保健、教育、子どもの保護、水と衛生などの分野における既存の戦略にてこ入れし、包括的なプログラムを形成している。
- 早すぎる結婚の撤廃に向けた取り組みをするためには、**国のイニシアティブや枠組み**が不可欠だ。**ベトナム**では、少数民族問題委員会が、保健省（人口・家族計画局）および労働・障害・社会省（児童保護局）と協力して、子どもの保護システムの強化やプログラム構築を行っている。さらに法務省、文化スポーツ観光省、情報通信省は、それぞれの活動にCEFM防止を主流化させている。
- **バングラデシュ**政府がプランと協力して、保護者による女の子の年齢詐称を防ぐためのオンライン出生登録プログラムを実施したことに示されるように、**市民社会と政府の連携**は重要である。
- **インド**のパチョッドにある健康管理研究所では、警察やコミュニティ・リーダーと協力して説明責任を果たす活動を行っているが、このように**進捗状況を測定して説明責任を果たすこと**が必要である。**マレーシア**では、プログラムが伝統的な祭司や婚姻登録を担当する地方政府職員と協力して、CEFMを防止し、出生記録を追跡して当事者が結婚できる年齢であることを確認するよう働きかけている。
- 警察と連携した市民による法執行は**コミュニティの説明責任**であり、これは**バングラデシュ**のマイメンシンやクルナで、プランや地元グループGhasforing、思春期の擁護者と仲間グループが、仲間の年齢を追跡し、出生証明書の偽造されていた場合、地元警察と連携した活動のようには有効である場合がある¹⁷。

アジアにおけるプログラムの革新と有望な実践

- CEFMと多くのコミュニティの思春期の子どもと若者が自らのセクシュアリティを探求し、表現し、理解する場がないことの相互関係を認識しながら、**ユースのセクシュアリティに取り組む努力**がますます進んでいる。Child, Early and Forced Marriage and Sexuality Programsのワーキンググループによる最近のレビューでは、CEFMを終わらせるための活動においてセクシュアリティを扱うプログラムに着目している¹⁸。
- **統合マルチメディア・キャンペーン**も、プログラム担当者が試みている革新的な手法の一つである。**インド**人口基金は「Main Kuch Bhi Kar Sakti Hoon(私、女性は何でもできる)」という複数のメディアによるシリーズを制作し、テレビ、ラジオ、インターネット、携帯電話を利用して、家族計画、早すぎる結婚、早期および繰り返される妊娠、避妊具使用、家庭内暴力、性別による産み分けに関する支配的な社会的・文化的規範に挑戦している。
- ユース女性が職を失い、早すぎる結婚を余儀なくされる、**意図しない妊娠を防ぐための情報を提供する**。CARE Cambodiaは、「Chat! Contraception(避妊について話そう!)」を開始し、**カンボジア**の縫製工場で働く人たちに、避妊や性感染症(STD)に関する情報を提供し、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)に関する知識を向上させた。このプログラムは、対面のワークショップスタイルのセッション、工場での女性工場労働者を主人公にしたド(これは携帯電話アプリでも視聴できる、そしてこのアプリでは、スケジュールの管理もできる)とともに毎日クイズや宝探しなどを組み合わせている。このプログラムは2015年に開始され、それ以来、2万5,000人を超える労働者が参加したことにより、望まない妊娠は減少した。現代の避妊法の使用率は2倍になり、約50%に達している¹⁹。
- お互いを尊重し、支え合うと定義できる「**幸せな結婚**」を促進することは、健康的で社会的にポジティブな行動の見本を提示できる。**ネパール**で開発・検証されたSave the Childrenのカリキュラム「Choice, Voices and Promises(選択、声、約束)」の保護者向けの教材では、親が娘の結婚に対し望む肯定的な主張を形作るために、広告の見識を利用している²⁰。
- 特に、ジェンダーの社会規範を変えるための活動の成果を把握するために、**より創造的な評価**が多くの組織で試されている。CAREは、基礎調査で社会規範を把握するための「社会規範分析プロット(SNAP)」手法を開発し²¹、プランは、早すぎる結婚に関する知識や態度の変化を測定するために使用できるツール、「早すぎる結婚容認指標」を開発した。
- **結婚は義務ではなく、人から与えられるものでもない**。ほとんどの文化では、結婚は当然のことと考えられており、この考え方は女性の価値、能力、可能性に関する家父長的な考え方を強化している。**インド**では、フェミニストの人権団体であるCreating Resources for Empowerment in Action(CREA)が、思春期の性と生殖に関する健康と権利(SRHR)プログラムにCEFMという新しい視点を取り入れ、結婚の重要性を強調せず、若者が取り得る結婚以外の選択肢の認識を高めることを目指している²²。



© Plan International/Patrick Kaplin



スケールアップのための重要な要素

プログラムを国家的な規模に拡大するためには、政府のあらゆるレベルにおける更なるコミットメントと資金調達だけでなく、膨大な時間、努力、投資も必要となる。世界保健機関(WHO)のExpandNet Frameworkと、ジョージタウン大学リプロダクティブヘルス研究所とSave the Childrenの協力によるPassages Projectは、CEFMプログラムに対する政府の支持を高いレベルで醸成するための鍵として、以下のスケールアップのための要素を挙げる。

- 政治的意思、あるいは政治的好機
- 支持者 と実施者の連携/戦略的パートナーシップ
- 強力なエビデンスベース
- コミュニティのオーナーシップと参加

このフェーズIIの調査では、規模を拡大したプログラム、またはその準備が整っていると思われるプログラムが明らかになった。

- **バングラデシュ**の女性・児童省とユニセフは、12~14歳の思春期の子どもを対象に、ジェンダーの不平等と暴力について批判的に考察する活動に「学校におけるジェンダー平等運動(GEMS)」のカリキュラムを使用しているを行っている²³。GEMSは、インドのマハーラーシュトラ州のほぼすべての25,000校の公立学校で実施されており、Paz y Desarrolloとベトナム政府がダナン省でも実施中である。
- **インド**・ジャールカンド州のウダーンで、教育・開発に注力し活動。
- BALIKAIは**バングラデシュ**の72の農村地域で、女の子を対象としたプログラムとコミュニティへの働きかけを中心に活動している。
- PRACHARは、**インド**北部のビハール州で、早すぎる結婚を遅らせること、健康的な妊娠のタイミングと間隔の啓発に重点を置いて活動している。